

さいたま市
健康づくり及び食育についての調査

結果報告書

令和4年2月
さいたま市

目 次

I	調査概要	1
1	調査の目的	3
2	調査設計	3
3	回収結果	4
4	報告書の見方	5
II	総括	7
1	さいたま市ヘルスプラン21（第2次）の目標指標に関する結果概要	9
2	第3次さいたま市食育推進計画の目標指標に関する結果概要	15
III	調査結果	19
1	基本属性	21
2	健康観、現在の健康状況について	37
3	身体活動・運動について	40
4	休養・こころの健康について	55
5	たばこについて	112
6	お酒（アルコール）について	135
7	歯の健康について	143
8	栄養・食生活について	161
9	疾病予防・健康診断や検査について	253
10	非常時に備えた備蓄について	304
IV	使用した調査票	315

I 調査概要

1 調査の目的

本調査は、「さいたま市ヘルスプラン21（第2次）」、「さいたま市歯科口腔保健推進計画」、「さいたま市がん対策推進計画」、「第2次さいたま市自殺対策推進計画」及び「第3次さいたま市食育推進計画」の各計画の評価並びに次期計画の策定の基礎資料とするために実施しました。

2 調査設計

調査地域：市内全域

調査対象者：(A) 市内在住の0～14歳の男女各700人 計1,400人

(B) 市内在住の15歳以上の男女各2,500人 計5,000人

調査期間：令和3年6月21日～令和3年7月16日

調査方法：郵送による配付・回収

抽出方法：0～5歳、6～14歳、15～19歳、20～29歳、30～39歳、40～49歳、50～59歳、60～69歳、70歳以上の9階層に分け、無作為抽出（端数2名は70歳以上の男女に1人ずつ加算）

設問分野：健康観・健康状況、身体活動・運動、休養・こころの健康、たばこ、お酒、歯の健康、栄養・食生活、疾病予防・健康診断等について

3 回収結果

区分	年齢階層	配付数（票）	有効回収数（票）	有効回収率（％）
A	0～5歳	700	446	63.7
	6～14歳	700	460	65.7
	年齢不詳	—	1	—
	小計	1,400	907	64.8
B	15～19歳	714	291	40.8
	20～29歳	714	222	31.1
	30～39歳	714	311	43.6
	40～49歳	713	295	41.4
	50～59歳	714	353	49.4
	60～69歳	714	418	58.5
	70歳以上	716	429	59.9
	年齢不詳	—	26	—
	小計	4,999	2,345	46.9
	合計	6,399	3,252	50.8

※有効回収数（票）：回収調査票のうち、無効票（全問未記入）を引いた数

※対象者抽出後、調査票発送段階で市外への転出者が生じたため、「40～49歳」から1名を除外しています。

参考	平成29年調査	1,400	971	69.4
	平成28年調査	5,000	2,440	48.8
	平成24年調査	5,000	2,407	48.1

※平成29年調査：「さいたま市 食育についての調査」（0～15歳対象）

平成28年調査：「さいたま市 健康づくり及び食育についての調査」（15歳以上対象）

平成24年調査：「さいたま市 健康についての調査」（15歳以上対象）

4 報告書の見方

- 結果は、それぞれの設問に該当する回答者を基数とした回答率（％）で表しています。
- 回答率は、小数点第2位を四捨五入して掲載しているため、合計が100%にならないことがあります。
- 回答者が2つ以上回答することができる設問(複数回答)の場合、その回答率の合計は100%を超えることがあります。
- クロス集計結果の図表については、それぞれに「無回答」があるため、全体の示す数値とは一致していない場合があります。
- クロス集計の表については、「無回答」を除いて、横軸で見た際の第1位を塗りつぶし、第2位を太字で表しています。

45.0 : 第1位

35.0 : 第2位

25.0 : 第3位以下・無回答等

- 選択肢の一部を省略・編集している場合があります。
- 「計画における数値目標のデータ」は、次のマークで表示しています。



: さいたま市ヘルスプラン21（第2次）



: 第3次さいたま市食育推進計画



: さいたま市歯科口腔保健推進計画

- 各ライフステージの年齢は次のとおりです。

乳幼児期：0～5歳

学 齡 期：6～15歳

青 年 期：16～24歳

成 人 期：25～39歳

壮 年 期：40～64歳

高 齢 期：65歳以上

I 調査概要

○計画の目標数値及びクロス集計については、無回答を除いて「カイ二乗検定」により独立性（関連性）の検定を行いました。

「カイ二乗検定（独立性の検定）」とは、回答それぞれが独立している（関連性がない）と仮定し、公式によりカイ二乗値及び有意確率（ある結果が偶然発生する確率）を求め、有意確率が有意水準（一般的に 0.05 とする）より小さい場合に有意な差が認められた（偶然発生した結果である可能性が低く、関連性がある）と判断しています。なお、有意水準を 0.01 とした場合、0.05 とした場合より信頼性が高くなります。

本編中の「有意に」とは、統計的に関連性がある、ということの意味します。

○性別、年代別等のクロス集計は独立性（関連性）の検定を行い、単一回答設問は図表タイトルに、複数回答設問は選択肢に印を付しています。

*：有意確率 0.05 未満 **：0.01 未満

○性・年代別や性・ライフステージ別のグラフと表では、性別の年代間における有意差の状況を表しています。

- 例えば「男性」にのみ「*」または「**」がある場合は、男性の年代間に有意差があり、女性の年代間には有意差がないことを表す。
- 「**/**」の場合は、左側が男性、右側が女性にそれぞれ有意差があることを表す。
- 複数回答設問の選択肢に「*」または「**」がある場合は、その選択肢において有意差があることを表す。
- 経年比較の項目に「*」または「**」がある場合は、比較対象間において有意差があることを表す。